

設置の趣旨等

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 神田外語大学の概要（設置の背景）

神田外語大学（以下「本学」という。）の建学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。この建学の理念の下、本学外国語学部は、「広く一般知識を授け、深く専門学術を教授研究するとともに、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成すること（神田外語大学学則第一条）」を目的とし、環太平洋地域の言語及び文化並びに国際コミュニケーション等を学ぶ英米語学科、中国語学科、スペイン語学科、韓国語学科、国際コミュニケーション学科及び国際言語文化学科という学科構成となっている。本学が育成を目指している人材像は次のとおりである。

- 言葉の学習を通じて「話す・聞く・読む・書く」の高い能力を身につけるとともに、文化の根源にあるものを常に探求し、自己の意見を適切に発表できるコミュニケーション能力に優れた人物。
- 他国の伝統・文化を尊重する世界観・歴史観、自国の伝統に基づく深い文化観を持ち、かつ新しい価値観を創造し得る幅広い教養を持った個性豊かな人物。
- 逞しさと気品を備えて、冷静に将来を洞察する力を持ち、時に応じて機敏に行動できる人物、さらに自然を愛し、人の心の痛みを思う心豊かな人物。

(2) 新学科の概要

中国語学科、韓国語学科並びに国際言語文化学科のインドネシア語、ベトナム語及びタイ語の各専攻を統合し、アジア言語学科を設置する。同学科に中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語及びタイ語の各専攻を置く。

また、スペイン語学科及び国際言語文化学科のブラジル・ポルトガル語専攻を統合し、イベロアメリカ言語学科を設置する^(注)。同学科にスペイン語及びブラジル・ポルトガル語の各専攻を置く。

(注)「イベロアメリカ」とは、かつてスペイン又はポルトガルの植民地であった中南米諸国及びこれらの旧宗主国であるスペイン及びポルトガルの総称である。「ラテンアメリカ」と対比すれば、①フランス語国のハイチ及びフランス領が含まれない点並びに②イベリア半島のスペイン・ポルトガルを含む点において異なる（すなわち、ラテンアメリカは地理的概念であるのに対してイベロアメリカは言語的・文化的概念）。このような状況から、神田外語大学としては、新学科の名称に「イベロアメリカ」という用語を使用することが適当と判断した。

(3) 設置の趣旨及び必要性

(ア) 背景

本学外国語学部は、建学当初から、環太平洋地域の言語及び同言語圏に関するさまざまな事柄に関する知識の修得が可能な学科構成を取るとともに、言語教育の充実に向けたカリキュラム改定や各言語の背景にある歴史・文化・社会等の理解を深めることを目的とした研究プログラム制^(注)の導入等、従来から、教育研究の改善に取り組んでいる。今回のアジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の設置の趣旨及び必要性は概要次のとおりである。

(注) 研究プログラム制は、言語の背景にある歴史・文化・社会等に関するさまざまな事柄に関する知識の系統立った修得を目的とするもの。本学の学生は、言語研究プログラム、コミュニケーション研究プログラム、「人間と文化」研究プログラム、日本研究プログラム、国際関係研究プログラム、国際ビジネス研究プログラム、国際協力研究プログラム、現代社会研究プログラム、アメリカ研究プログラム、中国研究プログラム、スペイン・ラテンアメリカ研究プログラム、韓国研究プログラム、東南アジア研究プログラムからなる13の研究プログラムの中から1つを選択して履修することとなっており、同プログラムの修了は卒業要件の一つとなっている（いわば専攻言語の他に専攻分野を有する形となっている。）。

(イ) 養成する人材を受け入れる側のニーズ

近年、2010年の国内総生産（GDP）が世界第二位となった中国をはじめとして、環太平洋地域の中でも特にアジア地域及びイベロアメリカ地域の経済的な台頭がめざましく、日本企業もこれらの地域での事業展開を活発化・本格化させている。このような状況により、アジア地域・イベロアメリカ地域の言語の運用能力及び各言語の背景にある歴史・文化・社会等といった同言語圏に関する幅広い知識を備えた人材に対するニーズが高まっている。

(ウ) 本学の対応

そこで、アジア地域及びイベロアメリカ地域の言語の運用能力の修得に向けて、各専攻言語の到達目標の設定及び必修単位数の増加等の措置を講じる一方、それぞれの地域全体を俯瞰する視点とさまざまな事柄に関する知識の系統立った修得をより一層促進するとともに、人材育成の方向性を内外により一層明確化するため、本学外国語学部の中国語学科、スペイン語学科及び韓国語学科並びに国際言語文化学科の各専攻をアジア及びイベロアメリカという2つの地域毎に改編することとした。

(エ) 設定した収容定員との関連性・学生確保の見通し

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の収容定員は、現行の中国語、スペイン語、韓国語学科及び国際言語文化の各学科の定員を基にしつつ、最近の志願状況等を踏まえ、需要により見合ったものとなるように設定したものである。例年、基礎となる各学科とも、

入学定員を上回る志願者を集めていることに加え（過去4年間の一般入試における実質倍率は次のとおり。）、最近の志願状況等を踏まえた変更により、設定した定員に見合った学生を確保できる見通しである。

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
中国語学科	2.6倍	2.3倍	3.1倍	3.6倍
スペイン語学科	2.8倍	2.6倍	2.9倍	2.8倍
韓国語学科	2.7倍	3.3倍	3.8倍	6.5倍
国際言語文化学科	2.0倍	3.2倍	2.1倍	3.0倍

(4) 教育研究上の目的

(ア) アジア言語学科

アジア言語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語）の運用能力を身につけさせると共に英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

(イ) イベロアメリカ言語学科

イベロアメリカ言語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（スペイン語、ブラジル・ポルトガル語）の運用能力を身につけさせると共に英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

(5) 卒業後の進路・経済社会の人材需要

本学外国語学部の卒業生は、専攻言語及び修得した専攻地域言語圏に関するさまざまな事柄に関する知識を生かし、小売業、商社、製造・建設業、運輸業、金融業、公務員、中学・高校教員、日本語教員等、幅広い分野に進出している。また、前述のとおり、アジア地域及びイベロアメリカ地域の経済的な台頭がめざましく、日本企業もこれらの地域における事業展開を活発化・本格化させていることから、アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の卒業生に対する経済社会の人材需要は、全般的に厳しい雇用情勢の中においても、今後ますます高まると考えられる。

(6) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の中心的な研究対象は、アジア地域及びイベロアメリカ地域の専攻言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語）及び専攻地域言語圏に関する歴史・文化・社会等である。

(7) 教育研究上の数量的・具体的な到達目標

本学は、高度で実践的な言語運用能力の修得に向けて、各学科の専攻言語につき、具体的な到達目標を設定することとした。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の専攻地域言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ブラジル・ポルトガル語）及び英語の具体的な到達目標は、別紙1. のとおりである。

2. 学部、学科等の特色

(1) 将来像答申との関係

平成17年1月28日中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」において示された大学が保有する機能に照らすと、本学外国語学部は、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育及び⑤特定の専門的分野（外国語・地域文化）の教育・研究といった各種機能を重点的に担い、国際社会に貢献する上で必要となる高度で実践的な専攻言語の運用能力の育成及び専攻言語圏に関する幅広い知識の教授を特色としていく計画である。

(2) 基本理念：「言葉」と「文化」を不可分と捉えた教育・研究

本学の基本理念の一つとして、「言葉」と「文化」を不可分と捉えた教育・研究がある。このことは、概要次のとおり、本学の設置認可申請書に設立基本構想の柱の一つとして謳って以降、今日まで一貫して実践しているところである。

○言葉と文化は不可分であり、文化の理解なしに単なる言語の習得はありえない。

○言葉は真空の中にあるものではない。大学の語学教育には語学の背景なり周辺の知識が必要となってくる。学習対象の言語を母国語として使用している地域の文学、思想、文化を研究することも重要である。

(3) 教育課程の特色

(ア) 高度で実践的な専攻言語の運用能力の養成

従来、日本の語学教育においては、文法や読解が偏重され、生きたコミュニケーション手段としての言語習得は軽視されがちであったが、本学では、現実の場面で活用できる実践的な言語運用能力の養成を重視した外国語教育を展開している。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においても、討論・スピーチ、通訳・翻訳等、高度で実践的な専攻言語の運用能力を養成するための教育課程を編成することとした。また、今回の学科改編を契機に、各専攻言語の具体的な到達目標を設定するとともに（別紙1. 参照）、同目標の達成に向けて、専攻言語の必修単位数を増加する等の措置を取り、より高度な専攻言語の運用能力の養成を図ることとした。

(イ) 専攻言語圏に関するさまざまな事柄に関する知識の教授

本学では、国際社会に貢献しうる人材には、専攻地域言語の運用能力とともに各言語の背景にある歴史・文化・社会等に関するさまざまな事柄に関する知識も重要との認識に基

づき、これらの系統立った修得のために研究プログラム制を導入している。今回、学科をアジア及びイベロアメリカという2つの地域毎に改編するとともに、別紙2. のとおり、専攻地域の全体像を掴む上で有益な履修要件の設定を行うことによって、それぞれの地域全体を俯瞰する視点とさまざまな事柄に関する知識の系統立った修得をより一層促進することとした。

(ウ) 実践的な英語の運用能力の養成

グローバル化のさらなる進展に伴い、国際社会に貢献しうる人材には、専攻地域言語に加え、実践的な英語の運用能力も必要となっている。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においては、現行の実践的な英語の運用能力を養成するための教育課程を踏襲しつつ、今回の学科改編を契機に、英語についても具体的な到達目標を設定するとともに(別紙1. 参照)、同目標の達成に向けて、英語の履修時間の増加等により、英語の運用能力の養成を強化することとした。

3. 学部、学科等の名称及び学位の名称

(1) 学科の名称

(ア) アジア言語学科 **Department of Asian Languages**

中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語及びタイ語というアジア地域の言語の高度な運用能力を身につけさせることを主たる教育研究上の目的とすることから、「アジア言語学科」とすることとした。

(イ) イベロアメリカ言語学科 **Department of Spanish and Portuguese**

スペイン語及びブラジル・ポルトガル語というイベロアメリカ地域の言語の高度な運用能力を身につけさせることを主たる教育研究上の目的とすることから、「イベロアメリカ言語学科」とすることとした。

(2) 学位の名称

現行の学位の名称を基本にするとともに、地域言語(中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語)を主たる専攻としつつ、前述のとおり、言語と文化は不可分の本学の基本理念に基づき、次のとおりとすることとした。

(ア) アジア言語学科

中国語専攻：学士(中国語・地域文化)

Bachelor of Arts in Chinese Language and Culture

韓国語専攻：学士(韓国語・地域文化)

Bachelor of Arts in Korean Language and Culture

インドネシア語専攻：学士(インドネシア語・地域文化)

Bachelor of Arts in Indonesian Language and Culture

ベトナム語専攻：学士（ベトナム語・地域文化）

Bachelor of Arts in Vietnamese Language and Culture

タイ語専攻：学士（タイ語・地域文化）

Bachelor of Arts in Thai Language and Culture

（イ）イベロアメリカ言語学科

スペイン語専攻：学士（スペイン語・地域文化）

Bachelor of Arts in Spanish Language and Culture

ブラジル・ポルトガル語専攻：学士（ポルトガル語・地域文化）

Bachelor of Arts in Portuguese Language and Brazilian Culture

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

本学外国語学部は、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成という目的の達成に向け、体系的に教育課程を編成している。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においても、専攻地域言語の運用能力の養成及び専攻言語圏に関するさまざまな事柄に関する知識の教授という教育研究上の目的の達成に向け、次のとおり、授業科目を、外国語科目、基礎科目、研究科目、研究演習、卒業論文及び自由選択科目に区分するとともに、適切な年次に配当して、体系的に教育課程を編成することとした。また、これらの学科においても、専攻分野に関する専門性のみならず、幅広く深い教養を培うことができるように、順次性にも配慮した履修要件の設定やオムニバス型授業の活用等といった工夫も継続することとした。

（1）外国語科目

（ア）地域言語科目

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においては、入学者のほとんどが専攻地域言語の初学者と想定されることから、1～2年次には基礎文法・読解に重点を置いた科目を設定する一方、3～4年次にコンテンツ・ベースの総合的な科目を設定し、討論・スピーチ、通訳・翻訳等を通じて高度で実践的な運用能力を養成する。

（イ）英語科目

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においては、英語運用能力の養成にも力を注ぎ、一定の履修要件を設定する等により、順次性のある体系的な教育課程を編成する。

（ウ）選択外国語科目

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においては、自由選択科目として、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を履修可能とする。

(2) 基礎科目

1年次前期の必修科目として、文献・情報の検索の仕方やレポート・論文作成の方法等の修得を目的とする基礎演習を設定する他、歴史学、哲学、宗教学、文学、社会学、法学、政治学、経済学、心理学、経営学、統計学、生物学、化学等の科目を設定する。

(3) 研究科目

本学では、所属する学科・専攻及び科目群によって定められた授業科目・単位数を充たすとともに、所属する研究プログラムを修了することを卒業要件としている。アジア言語学科及びイペロアメリカ言語学科の学生についても、基本的には、前者の条件を充たすために専攻指定科目16単位を含む32単位以上を、後者の条件を充たすために研究演習・卒業論文と併せて研究プログラム指定科目24単位以上を、それぞれ修得することを卒業要件とする（ただし、双方から指定されている科目もある）。

(4) 研究演習（ゼミ）

本学の学生は、専攻言語とともに選択した研究プログラムの指定科目を履修し、実態上、複数の専攻を有すること等に鑑み、最大で3科目（3年次2科目、4年次1科目）の研究演習（ゼミ）を履修することが可能である。ただし、必修ではなく、研究科目の履修をもって代えることができる。

(5) 卒業論文

本学では、卒業論文の執筆は、文章（文献）を読む力、討論する力、文章を書く力、論理的に考え、分析する力を育成する上においても有意義であるとの考えに基づき、研究演習の履修とともに卒業論文の執筆を奨励している。ただし、必修ではなく、研究科目の履修をもって代えることができる。

(6) 自由選択科目

本学では、自由選択科目として、キャリアデザイン、キャリア開発、国際ボランティア体験、トライ外国語科目（外国語を入門的に学習する集中語学講座）等が設定されている。また、各科目群の要件を超えて修得した単位、教職科目、単位互換協定等に基づいて他大学で修得した単位、国内外留学制度を利用して修得した単位等についても、一定の範囲内で自由選択科目に充てることができる。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員配置の基本的な考え方

本学外国語学部は、後述のとおり、少人数のクラス編成を基本としており、このようなクラス編成が可能となるよう、手厚い教員配置を行うこととしている。また、言語運用能力の向上及び各国の歴史・文化・社会等に関する正確な理解の促進を目的として、各言語の教授法やコミュニケーション学等の修士号取得者を中心に、ネイティブ教員も積極的に採用・配置することとしている。

(2) 適切な教員配置

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においても、専攻地域言語の運用能力の養成及び専攻言語圏に関するさまざまな事柄に関する知識の教授等に必要な教員を確保するとともに、地域言語科目をはじめとして、教育上主要と認める授業科目については原則として専任教員の担当とする等、適正な教員配置を行うこととしている。

(3) 研究分野

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の教員の研究分野は、文法、言語学、歴史、文化、文学・思想、地域研究等多彩であり、高度の言語運用能力と幅広い教養の養成に適した教員配置となっている。

(4) 年齢構成

アジア言語学科の教員の年齢構成は60歳以上12人、50～59歳9人、40～49歳7人、39歳以下3人、イベロアメリカ言語学科の教員の年齢構成は60歳以上6人、50～59歳3人、40～49歳6人、39歳以下6人であり(いずれも完成年度の年齢)、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。なお、本学の教育職員定年規程及び同運用細則は別紙3. のとおり。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

本学では、学生自身が課題・問題点を見つけだし、それを解決していく過程で問題解決能力を養うことを目的として、教員・学生間のインタラクションを重視した教育手法を多数の授業で採用している。また、語学のトレーニングにおいては、学習対象となる言語を用いてその言語を学ぶダイレクト・メソッドを大幅に取り入れている。その他、オムニバス型授業も実施しており、専門分野や国籍等を異にする複数の教員がそれぞれの視点から共通のテーマについて講義を行うことによって、問題を多面的に考察することの重要性を体感する機会ともなっている。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においても、これらの教育方法を踏襲することとしている。

(2) 教育効果を十分にあげることのできるクラス編成

本学では、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成に向け、授業にグループ・ワークやプレゼンテーション等の活動を多数採用しており、その機能的・効果的運営の見地から、少人数のクラス編成を基本としている。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においても、外国語科目については原則として全科目、外国語以外の科目についても7～8割程度は1クラスの人数を30名以下とすることとしている。

(3) 専攻言語の配当年次

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においては、専攻言語の効果的な修得の見

地から、次のような考え方にに基づき、配当年次を設定する。

(ア) 1・2年次

1・2年次は、読解、作文、会話、文法といった基礎知識の総合的な修得を目標として、専攻言語の必修単位数を次のとおり設定する。また、外国人と平常心でコミュニケーションできる語学力の育成にも重点を置き、ネイティブ教員の担当科目を多数配当する。

<アジア言語学科>

○中国語専攻・韓国語専攻：24単位

○インドネシア語専攻・ベトナム語専攻・タイ語専攻：18単位

<イベロアメリカ言語学科>

○スペイン語専攻：24単位

○ブラジル・ポルトガル語専攻：18単位

(イ) 3・4年次

3・4年次は、より高度な言語運用能力を習得させるため、コンテンツ・ベースの総合的な言語科目を設定し、専攻言語の必修単位数を次のとおり設定する。

<アジア言語学科>

○中国語専攻・韓国語専攻：16単位

○インドネシア語専攻・ベトナム語専攻・タイ語専攻：12単位

<イベロアメリカ言語学科^(注)>

○スペイン語専攻：12～20単位

○ブラジル・ポルトガル語専攻：6～14単位

(注) イベロアメリカ言語学科における専攻言語の必修単位数の詳細は次のとおり。

(3年次) スペイン語専攻：12単位、ブラジル・ポルトガル専攻：6単位。

(4年次) 両専攻共通：英語、スペイン語又はポルトガル語のうち8単位。

(4) 卒業要件

本学外国語学部の卒業要件は、4年以上在学し、各学科所定の科目別単位数及び選択した研究プログラム所定の科目別単位数をいずれも修得することである。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科所定の科目別単位数は次のとおりとする（卒業に要する単位数はいずれも合計124単位）。

<アジア言語学科>

○中国語専攻・韓国語専攻

英語科目16単位、地域言語科目40単位、基礎科目12単位、研究科目40単位、自由選択科目16単位

○インドネシア語専攻・ベトナム語専攻・タイ語専攻

英語科目26単位、地域言語科目30単位、基礎科目12単位、研究科目40単位、自由選択科目16単位

<イベロアメリカ言語学科>

○スペイン語専攻

英語科目 8 単位、地域言語科目 3 6 単位、基礎科目 1 2 単位、研究科目 4 0 単位、自由選択科目 2 0 単位、英語、スペイン語又はブラジル・ポルトガル語 8 単位

○ブラジル・ポルトガル語専攻

英語科目 2 0 単位、地域言語科目 2 4 単位、基礎科目 1 2 単位、研究科目 4 0 単位、自由選択科目 2 0 単位、英語、スペイン語又はブラジル・ポルトガル語 8 単位

(5) 履修モデル

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の各専攻における履修モデルは別紙 4 .

(1) ~ (4) のとおり。

(6) 登録上限

本学では、原則として、1 ~ 3 年次の前期・後期、それぞれ履修登録できる単位数を 2 4 単位までとしており、アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においても、同様の登録上限を設定する。また、学生が各年次に亘って適切に授業科目を履修することができるよう、地域言語科目についても、次のとおり登録上限の設定等を行う。

<アジア言語学科>

○中国語専攻及び韓国語専攻：

3 年次生は、履修年次 3 ~ 4 年の地域言語科目を、1 2 単位を超えて履修できない。

○インドネシア語専攻、ベトナム語専攻及びタイ語専攻：

「インドネシア語総合」、「ベトナム語総合」、「タイ語総合」については、4 単位以上修得しても、4 単位を超える単位は（地域言語科目ではなく）自由選択科目とする。

<イベロアメリカ言語学科>

○スペイン語専攻：

3 年次生は、「スペイン語研究」を、1 2 単位を超えて履修できない。

○ブラジル・ポルトガル語専攻：

「ポルトガル語総合」については、4 単位以上修得しても、4 単位を超える単位は（地域言語科目ではなく）自由選択科目とする。

(7) 他大学における授業科目の履修

本学では、教育上有益と認められる場合には、他大学等で修得した一定の単位を、原則として 6 0 単位を超えない範囲で卒業要件単位として認定している。アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科においても、同様の措置を継続する。

○本学の認定留学を利用して留学した海外の大学で修得した単位

○神田外語学院からの入学者が同校で修得した単位

○外国語学部の学生が履修可能と指定された大学院授業科目（自由選択科目として認定。）

○放送大学で修得した単位（自由選択科目として認定。上限 2 0 単位。）

- 千葉県私立大学・短期大学間単位互換包括協定に基づき修得した単位（自由選択科目として認定。上限20単位。）
- 千葉大学との単位互換協定に基づき修得した単位（自由選択科目として認定。上限20単位。）
- 本学入学前に他大学・短大で修得した単位（外国語科目・特別演習科目以外の科目として認定。上限30単位。）
- 上記の他、本学が認めた教育機関で修得した単位

7. 施設、設備等の整備計画

本学は、1987年の開学時に、その校地、校舎等の施設及び設備等につき、教育にふさわしい環境を整備して以降も、随時その充実に努めるとともに、適切な維持管理及び改修等を行ってきた。現時点における校地、運動場、校舎等施設、図書等の資料及び図書館の状況は次のとおりであり、引き続き教育にふさわしい水準を維持している。

(1) 校地、運動場

本学は千葉市美浜区の文教地区に位置し、校地の面積は約99,000平方メートルである。校舎と同一の敷地内に10,000平方メートルの芝の運動場と5,200平方メートルの土の運動場を備えている。また、敷地内には、日本庭園、洋風庭園等4つの庭園を配置しており、学生が休息その他に利用している。

(2) 校舎等施設

本学の校舎の延床面積は約35,000平方メートルで、1987年の開学以来、学生及び社会のニーズに対応する形で徐々に拡張を図ってきた。本学では、実践的な言語運用能力の養成に向けて少人数のクラス編成を基本としていることから、収容人数が30人程度の小規模な教室を中心に整備するとともに（他方、収容人数が400人の教室も備えている。）、必要なAV機器等を設置している。また、国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とする本学は、コミュニケーション能力の養成にも力を入れており、2003年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された6号館（SACLA^(注)）をはじめとして、ICT能力及び言語運用能力の養成のための自立学習施設が充実している。さらに、体育施設についても、体育館、トレーニング・ルーム、ダンス・スクエア等が整備されており、授業や部活動等の各種活動に利用されている。

(注) 名称は、Self-Access（自らアクセスする）、Communication（コミュニケーションする）、Learner Autonomy（自立学習）の頭文字を取ったもの。

(3) 図書等の資料、図書館

本学の附属図書館は、言語学及び地域研究、コミュニケーションに関する文献を中心に、2011年3月現在、図書約18万2,000冊、雑誌約1,850種類、視聴覚資料約4,140点を所蔵している。EBSCOhost Academic Search Elite、JSTOR等の英文電子ジ

ジャーナル、朝日新聞、読売新聞、日経新聞等、Lexis Nexis Academic 等の新聞データベース、ジャパンナレッジ等の事典データベースを整備しており、学内端末で利用可能である。また、資料の所蔵情報は、図書館ホームページ経由で学外からも検索可能である。

閲覧席数は、本学の収容定員 3, 489 名の約 1 割にあたる約 340 席である。他の図書館との協力については、千葉県図書館情報ネットワーク協議会、千葉県大学図書館協議会、私立大学図書館協議会に加盟して、地元の図書館や全国の大学図書館との間で図書の貸出や文献複写等の相互協力を実施している。

8. 入学者選抜の概要

(1) アドミッション・ポリシー

本学は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」という建学の理念の下、「わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成すること」を目的としており、次のような人物を広く求め、入学者として受け入れることをアドミッション・ポリシーとしている。

- 高等学校等において、基本的な知識・技能・コミュニケーション能力を習得している人。
- 外国語と外国の文化に興味を持ち、将来国際社会の一員として活躍する意欲のある人。
- 本学で実践的な外国語運用能力を習得する強い意志を持っている人。

(2) 選抜方法

本学の選抜方法並びにアジア言語学科及びイペロアメリカ言語学科の各募集方法別の募集人員は次のとおりである。

(ア) 推薦入試 (アジア言語学科：46名、イペロアメリカ言語学科：38名)

本学の理念を理解し入学を強く希望する個性豊かな人物を、現役・高校既卒者・社会人に広く求める。将来、国際社会で活動する強い意欲を有することが応募要件であり、書類審査、小論文、英語リスニング^(注)及び面接によって総合的に選考する。

(イ) センター利用入試 (2教科)

(アジア言語学科：21名、イペロアメリカ言語学科：13名)

大学入学者選抜大学入試センター試験の受験者の中から、本学が求めている能力を有する人物を総合的に選抜する。大学入試センター試験の英語(リスニングを含む。)及び国語(国語総合、国語表現Ⅰ)の成績によって選考を行う。

(ウ) 一般入試 (Ⅰ期・全学科統一・Ⅱ期)

(アジア言語学科：59名、イペロアメリカ言語学科：49名)

学力試験。Ⅰ期、全学科統一及びⅡ期の三つの試験区分で行う。いずれも英語及び国語の筆記試験と面接によって選考を行う。

(エ) 神田外語学院指定1年次推薦入試

(アジア言語学科：若干名、イベロアメリカ言語学科：若干名)

神田外語学院長の推薦に基づき、神田外語学院の専門課程に在籍し、さらに本学への入学を強く希望する人物を選抜し、専門学校教育と大学教育の双方の教育効果を併せ持つ新しい人材を育成する。神田外語学院における成績・出席状況、TOEICの得点等を参考に、英語リスニング^(注)、日本語による面接及び小論文によって選考を行う。

(注) 中国語専攻及び韓国語専攻を除く。

(3) 科目等履修生、聴講生の受け入れ

本学は、科目等履修生、聴講生並びに大学間相互単位互換協定及び高大連携に基づく特別聴講学生を受け入れている。今後も、社会に門戸を開きつつ、募集人員の制限、適正な選考の実施、履修できる授業科目・科目毎の人数制限・履修条件の設定等、正規の学生の教育に支障が生じないように、十分な配慮を行う。

9. 取得可能な資格

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科については、次の教育職員免許状につき、教職課程認定を申請する予定である。

学科	免許状の種類	免許教科
アジア言語学科	高等学校教諭1種免許状	中国語
	高等学校教諭1種免許状	韓国語
	中学校教諭1種免許状	英語
	高等学校教諭1種免許状	
イベロアメリカ言語学科	高等学校教諭1種免許状	スペイン語
	中学校教諭1種免許状	英語
	高等学校教諭1種免許状	

10. 学外実習の具体的計画

(1) 企業実習

本学では、職業観の涵養を目的に、キャリア教育の一環として就業体験（インターンシップ）を導入している。同実習は、ビジネス・インターンシップⅠ・Ⅱという科目として授業化しており、単位認定を行っている。平成22年度の実績は、53企業／官公庁／団体で、派遣学生は110名であった。

(2) 海外留学等

本学は、学生が在学中に海外で言語を修得したり、異文化を体験したりすることができるよう、充実した海外留学制度・海外短期研修プログラム等を有している。また、本学で

は、海外の交換留学協定校や本学が認定した大学その他の高等教育機関で修得した単位を、60単位を上限に本学の単位として認定する「認定留学制度」を有している。

(ア) 海外留学制度

本学は、18カ国・地域の40大学と交換留学協定を結び、活発な交流を行っている。アジア地域及びイベロアメリカ地域においても、次の10カ国・地域の24校との間に交換留学協定を締結しており、アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の専攻言語を網羅している。

中国2校：上海大学、大連大学

台湾3校：文藻外語学院、静宜大学、中国文化大学

韓国5校：韓国外語大学校、蔚山大学校、慶熙大学校、漢陽大学校、金剛大学校

インドネシア3校：アトマジャヤ大学、インドネシア国立芸術大学デンパサール校、リア外国語大学

ベトナム2校：ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学、ハノイ大学

タイ2校：ブラパー大学、チェンマイ大学

アルゼンチン1校：国立ラプラタ大学

スペイン2校：バルセロナ自治大学、マドリード自治大学

メキシコ2校：グアダラハラ大学、グアダラハラ自治大学

ブラジル2校：ジュイス・デ・フォーラ連邦大学、ロンドリーナ州立大学

(イ) 海外短期研修プログラム

本学では、現地の大学での授業、ホームステイ、放課後のアクティビティー・小旅行等を体験し、旅行者としてではなく、生活者の視点からその国の習慣や文化に触れ、文化の違いを肌で感じることを目的として、春期・夏期休業期間を利用した4～6週間の海外短期研修プログラムを実施している。同プログラムを修了した学生に対しては、時間数に応じて2～4単位の単位認定を行っている。

11. 編入学の具体的計画

(1) 編入学の概要

アジア言語学科（中国語専攻・韓国語専攻）及びイベロアメリカ言語学科（スペイン語専攻）においては、神田外語学院のアジア／ヨーロッパ言語科卒業生の3年次編入学を受け入れる。編入学定員は、各専攻とも2名である。神田外語学院における成績・出席状況、TOEICの得点、専攻言語に関する検定試験結果等を参考に、書類審査並びに日本語及び専攻言語による面接によって選考を行う。

(2) 既修得単位の認定方法

神田外語学院アジア／ヨーロッパ言語科の英語＋中国語コース、英語＋韓国語コース及び英語＋スペイン語コースにおいては、国際コミュニケーション英語（40単位）、総合中国語／韓国語／スペイン語講座（40単位）、中国語／韓国語／スペイン語リスニング（4

単位)を含め、126単位(2,016時間)の修得が卒業要件となっている。3年次編入にあたっては、英語科目8単位、地域言語科目24単位、基礎科目4単位、研究科目8単位(ただし、学科指定科目としては認定しない。)、自由選択科目20単位の計64単位を、包括認定又は単位振替する。

(3) 履修モデル

編入学後の履修モデルは、別紙4.(5)及び(6)のとおり。

(4) 教育上の配慮

今後も、姉妹校の神田外語学院において、編入希望者を対象とする説明会を、年数回開催するとともに、編入学決定後も、各種ガイダンスや履修相談会を実施する等、十分な教育上の配慮を行う。

12. 管理運営

(1) 教授会

教授会は、専任の教授、准教授、講師(満56歳に達する年度以降は除く。)をもって組織され、学長が招集し、議長となる。開催頻度は、長期休暇期間等を除き、基本的に毎月一回というのが通例となっている。審議事項は、教育課程に関する事項、教育の改善に関する事項、学生の入学、退学、休学、卒業、その他学生の修学に関する事項、学生の賞罰、指導及び厚生に関する事項、外国語学部の教授、准教授及び講師の資格審査に関する事項並びにその他の学長の諮問した事項である。

(2) 学務審議会

学務審議会は、大学学務の重要事項について学長を補佐し、大学の教育と研究に資することを目的とし、学長、各学科の主任、教養教育運営部会長及び各研究分野長、学長の指名した者並びに事務局長及び教務部長をもって組織される。学長が招集し、議長となる。構成員の3分の2以上の出席によって成立し、審議事項は、学長の諮問した事項及びその他の大学の教育研究に関する重要事項である。学務審議会において合意された事項等は、教授会及び関係委員会にその方針を報告することとなっている。

(3) 教授会に置かれる委員会等

(ア) 教務委員会

教務委員会は、各学科、教養教育運営部会及び各研究分野の教員のうちから選出された者各1名(英米語学科については2名)、学長の指名した教員及び教務部数名をもって組織される。学長・教授会から諮問を受けた場合又は委員長が必要と認めた場合に開催される。審議事項は、教育課程及び授業に関すること、学生の学内試験、進級、卒業等の成績に関すること、学籍に関すること及びその他の教務に関すること(入学試験に関するものを除く。)である。議決された事項は、学長・教授会に報告しなければならない。

(イ) その他の主要な委員会

その他、教授会の下部組織として、学生委員会、キャリア教育委員会、国際交流委員会、入学試験委員会等が設置されている。いずれも、関係教職員をもって組織され、学長や教授会から諮問を受けた場合や委員長が必要と認めた場合等に開催され、議決された事項は、学長・教授会に報告しなければならないこととなっている。これらの委員会の審議事項は次のとおりである。

○学生委員会

学生の厚生、保健その他個人生活の援助に関する事、学生の授業外の諸活動の援助、調整に関する事、学生の賞罰に関する事、その他学生の生活一般に関する事。

○キャリア教育委員会

学生のキャリア教育に関する事項、学生職業相談及び職業斡旋に関する事項、学生のキャリアデザインに関する事項、その他卒業後の進路に関する事項。

○国際交流委員会

本学学生の海外・留学に関する事、外国人留学生の受入れに関する事、外国の研究者受入れに関する事、国際協力事業に関する事、国際交流の連絡、調整、企画、立案及び調査に関する事。

○入学試験委員会

本学外国語学部の学力試験の実施教科・科目及び実施方法に関する事、帰国子女及び外国人留学生の入学選抜に関する事、推薦入学に関する事、編入学試験の実施に関する事、聴講生の入学者選抜に関する事、合否判定の基準に関する事、その他外国語学部の入学者選抜に関する事。

13. 自己点検・評価

(1) 総論

本学では、自己点検・評価の重要性を認識し、学則第1条2に「本学の教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動の状況並びに研究について、自ら点検及び評価を行う。」と定めるとともに、「自己点検・評価規則」を制定し、日頃から、教育研究水準の向上に向けて教育研究等に関する自己点検・評価に取り組んでいる。

(2) 実施体制

学内に、自己点検・評価の実施並びにその結果の活用及び公表に関する業務を統轄する自己点検・評価委員会を設置している。教職員一体となった全学的な取り組みを担保するため、同委員会の構成員は、学長、副学長、研究科長、附属図書館長、各学科の主任、教養教育運営部会長、各分野長、教務委員長、事務局長、大学改革室長及び学長が指名した者となっている。

(3) 評価項目・実施方法

評価項目は、①理念・目的、②教育研究組織、③教育目的・内容・方法、④研究・PD活動、⑤学生の受け入れ、⑥学生支援、⑦管理運営、⑧施設・設備・環境、⑨社会貢献・連携、⑩社会的責務となっている。自己点検・評価は、これらの評価項目のうち、委員会が必要と認めた項目について、必要に応じて随時実施している。

(4) 結果の活用・公表

自己点検・評価規則に、「本学の教職員は、自己点検・評価の結果を踏まえ、本学の教育研究水準のさらなる向上に努めるものとする」と規定し、自己点検・評価の結果を、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の改善に役立てている。また、同規則に、「自己点検評価の結果に関する情報は、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に提供するものとする」と規定し、ウェブサイトを中心に、学内外に対する結果の公表にも積極的に取り組んでいる。

14. 情報の提供

(1) 専用サイト

教育研究活動等の状況に関する次の各項目に関する情報は、本学ホームページ上に専用サイト (<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/report581.html>) を設け、公開している。

- ①大学の教育研究上の目的に関すること。
- ②教育研究上の基本組織に関すること。
- ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- ④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。
- ⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- ⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- ⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。
- ⑩教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

(2) その他

また、学則、自己点検・評価報告書、認証評価の結果についてもウェブサイト上で公開しており、本件設置届出書についても、遅滞なくウェブ上で公開する予定である。

○学則：http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/aboutus/pdf/law2010_ug.pdf

○自己点検・評価報告書：

<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/aboutus/pdf/jikohyouka.pdf>

○認証評価の結果：

(<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/aboutus/pdf/daigakuhyouka.pdf>)

15. 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

授業の内容及び方法の改善並びに教員の教育・研究における資質向上を図るため、教授会の下にプロフェッショナル・ディベロップメント（PD）委員会を設置し、随時、PD についての研究、情報収集等を行うとともに、次のような組織的取組を行っている。

○ピア・オブザベーション

教員間で相互に授業見学を実施し、見学者と担当教員との間で授業の内容及び方法の改善に向けた意見交換を行っている。

○各種定期会合の場における議論

学科会議や研究分野会議等といった各種定期会合の場を利用して、授業の内容及び方法の改善に向けた議論を行っている。必要に応じて、専任教員と兼任教員の合同会議を開催し、議論を行うこともある。

○学生授業アンケート

各学期末に全学生を対象とした授業アンケートを実施しており、授業内容・方法に対する学生の評価を集計し、その結果を教育研究活動の改善に活用している。

○研究会等への参加

学内において担当科目別に授業内容・方法の改善に向けた研究会等を開催している他、必要に応じて、研究活性化を目的とした外部の各種セミナー等への派遣も行っている。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取り組み

本学では、社会的・職業的自立を図るために必要な能力の養成に向け、自由選択科目として、キャリアデザイン、キャリア開発、ビジネス・インターンシップⅠ・Ⅱを開講している。これらの科目のシラバスは別紙5. のとおり。

(2) 教育課程外の取り組み

また、教育課程外においても、社会的・職業的自立を図るために必要な能力の養成に向け、進路・就職ガイダンス、個別カウンセリング、少人数制のワークショップ、キャリア開発セミナー等を実施している。

(3) 適切な体制の整備

本学では、社会的・職業的自立を図るために必要な能力の養成に向けたキャリア教育を重視しており、教授会の下にキャリア教育委員会を設置するとともに、附属機関としてキャリア教育センターを設置する等、上記のような教育課程内外にわたる社会的・職業的自立に関する指導等を実施するための体制を整備している。

(以上)

具体的到達目標

○アジア言語学科中国語専攻：中国語

	1年次	2年次	3年次	4年次(卒業時)
到達目標	<p>CEFR-A1 レベル ／《国际汉语能力标准》一級</p> <p>個人あるいは日常生活に関係の深い、簡単で基礎的な非常に限られた言語材料をほぼ理解できる。身振り手振りその他の手段の助けを借り、非常に限られた簡単な語彙を用いて、自己紹介したり他人とコミュニケーションでできる。</p>	<p>CEFR-A2 ～ B1 レベル／《国际汉语能力标准》二級</p> <p>個人あるいは日常生活に関係が深く、よく知っている簡単な言語材料を基本的に理解できる。よく話題となることについて、やや簡単な方法で他人とコミュニケーションでき、自分あるいは他人の基本的なプロフィール等を紹介することができる。身振り手振りその他の手段の助けを必要とする時もある。</p>	<p>CEFR-B1 レベル ／《国际汉语能力标准》三級</p> <p>日常生活に関すること、および一般的なコミュニケーション場面において目や耳にする基本的な言語材料を理解できる。よく知っている話題について他人と意見交換したりコミュニケーションをとったりすることができ、これらの話題に関する基本的な状況を簡単に説明することができる。</p>	<p>CEFR-B2 レベル ／国际汉语能力标准》四級</p> <p>一般的な社交あるいは学習等の場における、表現が明晰でよく知っている内容の言語材料について、要点をおさえ、細部をつかんで理解することができる。よく知っている話題について、ある程度一貫性のあるわかりやすい表現で、基本的なコミュニケーション・ストラテジーを用いて、他人と交流することができる。過去の経験や自分の考えを、理由や説明を含めて簡単に述べたり書いたりすることができる。</p>
語彙数 (累計)	約 1,200 語	約 3,000 語	約 4,000 語	約 5,000 語
語学検定試験	中国語検定 3 級	新 HSK 筆記 4 級・ 口頭中級	中国語検定 2 級	新 HSK 筆記 5 級・ 口頭高級

4 技能の運用能力				
聞く	よく使われる挨拶や日常的表現、基本的な言い回しを聞き取ることができる。	自分・友達・家族についてや、買い物、食事、学校生活など、身近な話題でよく使われる文や表現を聞き取ることができる。	普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を聞き取ることができる。	具体的な話題のや複雑なテキストや、抽象的な話題について、主要な内容を聞き取ることができる。
話す	自己紹介や買い物など、簡単な会話を行うことができる。身振り手振りその他の手段の助けを必要とするときもある。	個人あるいは日常生活に関係の深い話題について話したり、情報交換できる。	身近で個人的にも関心のある話題や経験、出来事、夢、希望等を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。	自分が想定していない状況においても、相手の協力を得られれば、ある程度創造的なやりとりができる。
読む	ローマ字による発音表記（ピンイン）を手がかりに、簡単な文章を読むことができる。	ローマ字による発音表記（ピンイン）なしでも、簡単な文章を読むことができる。	辞書の助けを借りながら、新聞・雑誌や文学作品など、やや難易度の高い文章を読むことができる。	辞書の助けを借りなくても、新聞・雑誌や文学作品などを読み、大意を理解することができる。
書く	自分にとって身近な事柄について、短い語句や文を並べて書くことができる。	自分の身の周りや関心のある事柄について、ある程度まとまった内容を、趣旨が通じる程度に書くことができる。	より広範な範囲の事柄について、辞書の助けを借りながら、少し複雑かつ抽象的である程度まとまった内容を書くことができる。	さまざまな選択肢についてその長所や短所を示し自己の視点を説明しながら、より正確で適切な語句や文を使って書くことができる。

*CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference）。

*HSK：中国政府教育部（日本の文部科学省に相当）が認定する中国語能力試験「漢語水平考試」（Hanyu Shuiping Kaoshi）の頭文字をとった略称。国家漢弁（中国国家漢語国際推進事務室）が主催し、中国語を母語としない中国語学習者のために世界規模で行われている。

○アジア言語学科韓国語専攻：韓国語

	1年次	2年次	3年次	4年次(卒業時)
到達目標	韓国語の基本文法を終える。用言の正格と変格活用と、使用頻度の高い接続形と語末語尾を修得する。	韓国語の中級文法を終える。接続形と語末語尾のうち、会話形で用いられるものをほとんどカバーする。	韓国語の書き言葉の表現を終える。特に、漢字語語彙については新聞で用いられる程度のものを修得する。	多角的な運用能力を養う。通訳、翻訳、映像翻訳、時事的な表現など、プラクティカルな分野の修得を行う。
語彙数(累計)	約 850 語	約 3,000 語	約 4,000 語	約 5,000 語
語学検定試験	ハングル能力検定 4 級、韓国語能力検定 2 級	ハングル能力検定 3 級、韓国語能力検定 3 級	ハングル能力検定 準 2 級、韓国語能力検定 4 級	ハングル能力検定 2 級、韓国語能力検定 5 級
4 技能の運用能力				
聞く	子音、母音の聞きわけができる。教室内での韓国語での指示を聞き取れる。	韓国語での旅行会話程度の聞き取りができる。	韓国語のテレビ放送で、コマーシャルやニュースの聞き取りができる。	韓国語のドラマや映画が 4 分の 3 くらい聞き取れる。
話す	子音、母音を正確に区別して話せる。挨拶や自己紹介などができる。	韓国に旅行して困らない程度に話すことができる。	特定のトピックについて、自分の意見も加えながら話すことができる。	一般的なトピックについて自由な会話ができる。
読む	教科書に出てくる文章が理解できる。	辞書を引きながら、中学校の教科書程度の文章を読むことができる。	辞書を引きながら、新聞を読むことができる。	辞書を引きながら、小説、随筆などの文学的文章を読むことができる。
書く	用言の語形を正確に書くことができる。	日常会話で用いられる文章も書くことができる。	漢字語の多く混じったかたい文体の書き言葉の文章を書くことができる。	話し言葉が崩れたメールの文体も作文できる。

○アジア言語学科インドネシア語専攻：インドネシア語

	1年次	2年次	3年次	4年次(卒業時)
到達目標	教科書の内容を全て理解し、簡単な会話ができる。	文法を全て把握し、辞書を使用すれば読み書きができる。	2年間で学んだ内容を応用し、辞書なしでも読み書きがある程度自由に行うことができる。	自分の意志を相手に正確に伝えられ、読み物を自由に読め、公式文書を書くことができる。
語彙数(累計)	1,000語	1,500語	2,000語	2,500語
語学検定試験	インドネシア語技能検定試験 E級-D級	インドネシア語技能検定試験 D級-C級	インドネシア語技能検定試験 C級-B級	インドネシア語技能検定試験 B級
4 技能の運用能力				
聞く	授業での簡単な会話を聞き取れる。	ネイティブ講師の話すことを理解できる。	授業外の環境の中でインドネシア人の話すことを理解できる。	テレビなどの内容をある程度理解できる。
話す	授業中で簡単な会話ができる。	ネイティブ講師と身近なことについての会話ができる。	授業外の環境の中でインドネシア人とある程度の分野についての会話ができる。	授業外の環境でも自分の意志を正確に伝えられ、相手の話す内容についても理解し、反応できる。
読む	初級教科書の内容を理解できる。	インドネシアの文化などについて書かれた文章を辞書を利用し理解できる。	あらゆる分野の読み物を辞書を使って読むことができる。	ある程度の内容の読み物を辞書なしで読むことができる。
書く	授業で学んだ文法と語彙を利用し、日常使う程度の文章を書くことができる。	既に学んだ文法、語彙を使い、ある程度長い文章を書くことができる(手紙、メールを含む)。	自分の意志を伝える文章を書くことができる。	公式文書(高度な文章)を書くことができる。

○アジア言語学科ベトナム語専攻：ベトナム語

	1年次	2年次	3年次	4年次(卒業時)
到達目標	ベトナム語の基本文法を習得する。頻出単語を覚え、簡単な日常会話ができる。	ベトナム語の中級レベルの文法・表現力を習得する。日常会話がある程度支障なくできる。	抽象的な文章を読みこなし、自身の考えや意見についてプレゼンテーションできる。	多様で自然な表現ができる高度な運用能力を身につける。ニュースがある程度理解できる。
語彙数(累計)	850語	1,500語	2,000語	2,500語 最終目標 4,000語
4技能の運用能力				
聞く	授業の中でのベトナム語の会話が問題なく聴き取れる。簡単な口述が正しく理解できる。	ネイティブスピードで話されるベトナム人同士の会話内容のおおよそが理解できる。	ネイティブスピードで話されるベトナム人同士の日常会話の内容の大部分が理解できる。	ニュースを聞き、ある程度理解できる。映画のあらすじのおおよそが理解できる。
話す	習得した語彙の範囲で簡単な日常の事柄について話すことができる。正しい発音ができる。	多様な用例を応用して、自分の言いたいことをある程度伝えられる。	日常生活や身の回りの出来事について話すことができる。頻度の高い会話表現力を身につける。	自身の意見や意思を自然体で話すことができる。より高度な会話表現力を身につける。
読む	教科書の中の読解の文章を問題なく読むことができる。自然な和訳ができるように、読解力を身につける。	習得した語彙の範囲でより複雑な内容の文章を、辞書を引きながら理解することができる。	辞書を引きながら簡単な論説、記事などを読むことができる。文脈を理解し、簡潔に要約することができる。	辞書を引かなくても簡単な論説、記事を読むことができる。辞書を引きながら詩やエッセイなど文学作品を味わうことができる。
書く	誤字脱字がなく、正しく基本語彙を書くことができる。習得した文法・語彙を用いて、簡単な文章が書ける。	習得した語句と文を応用し、自分の伝えたいことが表現できる。ごく簡単な手紙やメールを書くことができる。	自分の伝えたいことがより自然な表現を用いて作文することができる。簡単なエッセイを書くことができる。	より高度な表現力を身につける。テーマにそった短い論説(1,000字程度)を書くことができる。

○アジア言語学科タイ語専攻：タイ語

	1年次	2年次	3年次	4年次(卒業時)
到達目標				タイ語を使う仕事に従事できるだけの実用的なタイ語運用能力とタイ社会についての知識を習得する。さらに日本語運用能力も高め、少なくとも非公式的な場でのタイ語から日本語への簡単な通訳翻訳ができる。
4 技能の運用能力				
聞く	自己紹介および簡単な日常会話（数字、色、家族構成、時刻、日時、曜日、季節、道案内、料理の注文、買い物など）を聴いて理解できる。	より複雑な内容の短い文章を通常のス速さのまま聴いて理解できる。	インターネット上の音声報道を聴いて理解できる。討論相手の話を聴いて理解できる。	相手の発話意図を正確に解釈し、誤解なく意思疎通できる。会議などの公式的な場で、発表や話し合いの内容を無理なく聞き取れる。電話での受け答えができる。
話す	自己紹介および簡単な日常会話（数字、色、家族構成、時刻、日時、曜日、季節、道案内、料理の注文、買い物など）ができる。	自分の考えや様々な事柄（自然現象、日常生活、大学生活、将来の夢、タイの都市と農村の比較など）について説明したり議論したりできる。パワーポイントを使って様々な題目（祝日、昔話、タイ社会・文化への興味など）について15～30分の発表ができる。	討論ができる（自分の意見や論点を主張し、相手の意見や論点を論駁することができる）。自分が調べて理解したことを要約して相手に伝えることができる。	明瞭な発音ができ、対話者に誤解を与えない話し方ができる。面接や会議などの公式的な場で、わかりやすく発表することができ、また建設的な話し合いができる。電話での受け答えができる。発話意図に沿った的確かつ論理的な話し方ができ、発話状況に即した発言ができる。

読む	タイ文字をすべて判別できる。易しい単語が読める。短い文を読んで理解できる。	より複雑な文を読んで理解できる。小学6年生の教科書を読んで理解できる。	辞書を使って新聞記事などの文章を読んで理解できる。	仕事や日常生活において必要な情報を様々な文献から収集し、自分なりに分析できる。公文書を含む仕事の書類や一般の書籍・新聞などを無理なく読みこなすことができ、その内容を適切に理解することができる。
書く	タイ文字をすべて書くことができる。声調体系を理解して規則通りに書くことができる。簡単な文を書くことができる。	より複雑な文を書くことができる。論理展開が明瞭な短い小論やレポートを書くことができる。	日程表などの仕事で使う簡単な書類を書くことができる。聴いた内容を書き留めることができる。読んだ内容を要約して書くことができる。	公文書を含む仕事の書類や日常生活に必要な書類の文面を、それぞれの用途に応じて、正確に書くことができる。相手のことを配慮した書き方ができる。

○イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻：スペイン語

	1年次	2年次	3年次	4年次(卒業時)
到達目標	辞書の使い方を習得する。基本的な文法を学習する。	接続法(仮定法)の上級文法を習得する。	長文の理解と作文能力とを身に付ける。	ディベート、プレゼンテーション能力を強化する。
語彙数(累計)	900語	1,900語	2,900語	3,900語
語学検定試験	DELE A1	スペイン語検定4級、DELE A2	DELE B1	スペイン語検定3級、DELE B2
4技能の運用能力				
聞く	ネイティブ・スピーカーの発音に慣れる。あいさつなどの短い定型文を難なく聞き取れるようにする。	教科書の内容に沿ったネイティブ・スピーカーの話を的確に理解できるようにする。	日常会話でネイティブ・スピーカーの話していることを理解できるようにする。	テレビ、ラジオのニュースや番組内のネイティブ・スピーカー同士の会話を理解できるようにする。
話す	正しい発音を身に付ける。あいさつや自己紹介などの短い定型文を使えるようにする。	自分の意思や日常生活における必要事項を正しく相手に伝えられるようにする。	あらかじめ準備をした発表内容を的確に相手に理解させられるようにする。	時事問題や相手の関心事項に合わせた会話や討論ができるようにする。
読む	教科書に出ている短い文章をスムーズに読めるようにする。	辞書を用いて論理的な長文を理解できるようにする。	新聞や雑誌の記事やまとまった内容のある評論等を理解できるようにする。	専門分野に関する原書、小説等を読めるようにする。
書く	アクセント記号等の特徴を把握し、基本的な単語や短文を書けるようにする。	日記等、自分の身の周りに起きていることを表現できるようにする。	自らの意見や見解を表現しうる力を身につけ、相手に伝える能力を養う。	小論文をスペイン語で書いたり報告書や企画書を作成できるようにする。

*DELE(外国語としてのスペイン語検定試験 スペイン文部省認定証):スペイン文部省の下に、スペイン国外ではセルバンテス文化センターが実施する、高い信頼性をもったスペイン語能力試験。

○イベロアメリカ言語学科ブラジル・ポルトガル語専攻：ブラジル・ポルトガル語

	1年次	2年次	3年次	4年次(卒業時)
到達目標	辞書の使い方を習得する。基本的な文法を学習する。	接続法や仮定法等の上級文法を習得する。	長文の理解と作文能力とを身に付ける。	ディベート、プレゼンテーション能力を強化する。
語彙数(累計)	800語	1,500語	2,000語	2,400語
語学検定試験	－※	－※	－※	ブラジル教育省外国人のための検定試験《中級》
4技能の運用能力				
聞く	ネイティブ・スピーカーの発音に慣れる。あいさつなどの短い定型文を難なく聞き取れるようにする。	教科書の内容に沿ったネイティブ・スピーカーの話を的確に理解できるようにする。	フリー・ディスカッションでネイティブ・スピーカーの話していることを理解できるようにする。	テレビ、ラジオのニュースや番組内のネイティブ・スピーカー同士のダイアログを理解できるようにする。
話す	正しい発音を身に付ける。あいさつや自己紹介などの短い定型文を使えるようにする。	自分の意思や日常生活における必要事項を正しく相手に伝えられるようにする。	あらかじめ準備をした発表内容を的確に相手に理解させられるようにする。	時事問題や相手の関心事項に合わせた会話や討論ができるようにする。
読む	教科書に出ている短い文章をスムーズに読めるようにする。	辞書を用いて長文を理解できるようにする。	新聞や雑誌の記事を理解できるようにする。	専門分野に関する原書を読めるようにする。
書く	アクセント記号等の特徴を把握し、基本的な単語や短文を書けるようにする。	日記等、自分の身の周りに起きていることを表現できるようにする。	電子メール等を使った実践的なすばやい情報伝達を可能にする。	ビジネス社会で通用する報告書や企画書を作成できるようにする。

※ブラジル教育省の外国人のためのポルトガル語検定試験は初級レベルが存在しないため、1～3年次では想定しない。

○アジア言語学科中国語専攻・韓国語専攻：英語

○イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻：英語

	2年次	4年次(卒業時)
到達目標	<p>CEFR A2 (概要)</p> <p>ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する頻度の高い文や表現を理解できる。</p> <p>身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。</p> <p>自分の背景や身の回りの状況や直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。</p>	<p>CEFR B1 (概要)</p> <p>日常生活で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点を理解できる。</p> <p>その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。</p> <p>身近で個人的にも関心のある話題について、脈絡のあるテキストをつくることができる。</p> <p>経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。</p>
語彙数(累計)	<p>家族、趣味や関心、仕事、旅行など、本人の日常生活に関わる話題について、簡単な言葉で自己表現できるだけの語彙を持っている。</p>	<p>家族、趣味や関心、仕事、旅行、時事問題など、本人の日常生活に関わる大部分の話題について、自己表現できるだけの語彙を持っている。</p>
語学検定試験	TOEIC 500 点	TOEIC 600 点
4 技能の運用能力		
聞く	<p>直接自分に関わりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。</p> <p>短くはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。</p>	<p>日常生活で出会う身近な話題について、情報の要点を的確に理解できる。</p> <p>話が聞き慣れた話し方で発音もはっきりしていれば、メッセージの細部も理解できる。</p>
話す	<p>単純な日常の生活の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。</p>	<p>自分の関心のある様々な話題について、ある程度の流暢さで、簡単な口述やプレゼンテーションができる。</p>

読む	<p>広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常的で単純、そして具体的に予測がつく情報を取り出すことができる。</p>	<p>自分の専門分野や興味に関連のある主題について、簡潔な事実関係のテキストを読んで、十分に理解できる。</p>
書く	<p>直接的な必要性のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。</p>	<p>関心のある話題について纏まった簡単なエッセイを書くことができる。自分の専門範囲の事柄について、情報を収集した上で総括し、報告できる。また、それに対し、自分の意見を提示することができる。</p>

- アジア言語学科インドネシア語専攻・ベトナム語専攻・タイ語専攻：英語
 ○イベロアメリカ言語学科ブラジル・ポルトガル語専攻：英語

	2年次	4年次
到達目標	<p>CEFR B1 (概要)</p> <p>仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。</p> <p>その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。</p> <p>身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるができる。</p>	<p>CEFR B2 (概要)</p> <p>自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。</p> <p>お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。</p> <p>かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。</p>
語彙力	<p>家族、趣味や関心、仕事、旅行など、本人の日常生活に関わる大部分の話題について自己表現できるだけの語彙を持っている。</p>	<p>日常生活の範囲を超えた幅広い話題について話すことができる語彙を持っている。</p>
語学検定試験	<p>TOEIC 550点</p>	<p>TOEIC 700点 (学生の英語レベルは幅が広いので、実際には TOEIC650点～700点のスコアが考えられる)</p>
4 技能の運用能力		
聞く	<p>日常生活での身近な話題について、語彙や表現、詳細を的確に理解できる。</p> <p>短い映像（映画のワンシーンや歌、広告など）や、短編ドキュメンタリーやニュースなどを見て理解することができる。</p>	<p>抽象的で複雑な話題を十分に理解することができる。</p>
話す	<p>日常生活での身近な話題（旅行、家族、趣味など）について会話ができる。</p> <p>抽象的な事柄（アイデンティティ、コミュニティ、文化、言語、社会など）や、世界情勢（政治、国際関係、法律、スポーツなど）についても考えを伝えることができる。</p>	<p>専門的な話題についての長い発話を充分に行うことができる。</p> <p>専門書や映画、ニュースなどの内容を的確に理解し、伝えることができる。</p> <p>発話意図に沿って的確かつ論理的な話し方ができ、発話状況に即した発言ができるようになる。</p>
読む	<p>一般の書籍・新聞などを読みこなすことができ、その内容を適切に理解することができる。</p>	<p>専門書や時事問題に関する論考などを理解することができる。</p>
書く	<p>関心のある話題についてのエッセイ、e-mail、1500字程度の専門的なレポートを書くことができる。</p> <p>日常生活に必要な書類の文面を、それぞれの用途に応じて、正確に書くことができる。</p>	<p>専門分野の事柄に関して情報を収集し、自身の意見を提示した上で報告書を書くことができる。</p> <p>場面に応じた適切な語彙を用いて、1500字以上の専門的なレポートを書くことができる。</p>

学科・専攻毎の新たな科目指定

アジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科については、それぞれの地域全体を俯瞰する視点と幅広い知識の系統立った修得をより一層促進するため、次のとおり科目指定を行い、専攻指定専門科目16単位のうち4単位については、(1) 学科共通の1科目(2単位)及び専攻の地域言語に対応する(2)～(6)のうちの1科目(2単位)を履修する。

1. アジア言語学科

(1) 学科共通【必修2単位】

○アジア研究入門

(2) 中国語専攻【選択必修2単位】

○中国語学概論Ⅰ・Ⅱ ○中国思想概論Ⅰ・Ⅱ ○中国文化概論Ⅰ・Ⅱ

○中国文学概論Ⅰ・Ⅱ ○中国史概論Ⅰ・Ⅱ ○中国経済概論Ⅰ・Ⅱ

○中国政治外交概論Ⅰ・Ⅱ ○中国社会概論Ⅰ・Ⅱ

(3) 韓国語専攻【選択必修2単位】

○韓国史概論Ⅰ・Ⅱ ○韓国文化概論Ⅰ・Ⅱ ○韓国語学概論Ⅰ・Ⅱ

(4) インドネシア語専攻【必修2単位】

○インドネシア研究入門

(5) ベトナム語専攻【必修2単位】

○ベトナム研究入門

(6) タイ語専攻【必修2単位】

○タイ研究入門

2. イベロアメリカ言語学科

(1) 学科共通【必修2単位】

○イベロアメリカ研究入門

(2) スペイン語専攻【選択必修2単位】

○スペイン語学概論Ⅰ・Ⅱ ○スペイン文化研究Ⅰ・Ⅱ

○スペイン文学史Ⅰ・Ⅱ ○スペイン史概論Ⅰ・Ⅱ

○ラテンアメリカ史概論Ⅰ・Ⅱ ○ラテンアメリカ研究入門Ⅰ・Ⅱ

(3) ブラジル・ポルトガル語専攻【必修2単位】

○ブラジル研究入門

神田外語大学 教育職員定年規程

第1条 学校法人佐野学園神田外語大学就業規則第46条第1項ただし書きに基づき、教育職員の定年を次のとおり定める。

教授 70歳

准教授 65歳

講師 60歳

2 平成16年4月1日以降に、新たに期間の定めのない契約が適用される教育職員の定年は次のとおり定める。

教授 65歳

准教授 60歳

講師 60歳

ただし、講師の給与等の処遇については、55歳に達した以後60歳の期間は、別に定める。

3 定年に達した者は、その日の属する年度の学年末をもって退職とする。ただし、大学に特に必要と認めた場合には、理事会の決定により定年を延長することができる。

附 則

本規程は昭和62年4月1日から施行する。

附 則

本規程は平成2年4月1日から施行する。

附 則

本規程は平成16年4月1日から施行する。

附 則

本規程は平成18年9月1日から施行する。

附 則

本規程は平成19年4月1日から施行する。

神田外語大学

教育職員定年規程運用細則

第1条 この細則は、神田外語大学教育職員定年規程の運用について、必要な事項を定める。

第2条 附属図書館長、その他附属研究教育機関の長、学科主任及び大学院研究科長については、その在任中は定年を延長することができる。

第3条 大学開学時及び大学院・学部・学科等の新增設のため任用された教育職員が学年進行中に定年に達した場合は、完成年度の翌学年度末まで定年を延長することができる。

第4条 本則第1条第3項により採用された教育職員の在職期間は、完成年度の翌学年度末までとする。

第5条 この運用細則に定めるもののほか、この運用細則の実施について必要な事項は理事長が定める。

附 則

本細則は平成2年4月1日から施行する。

附 則

本細則は平成4年4月1日から施行する。

履修モデル

(1) アジア言語学科中国語専攻・韓国語専攻

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			38単位		38単位		48単位			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
外国語科目	英語科目	16単位	6単位		6単位		4単位			
	地域言語科目	40単位	6単位	6単位	6単位	6単位	8単位		4単位	4単位
	選択外国語科目	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特別演習科目		—	—	—	—	—	—	—	—	—
基礎科目		12単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	—	—
研究科目		32単位※	4単位	6単位	6単位	6単位	6単位	4単位	—	—
研究演習		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位	
卒業論文		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位	
自由選択科目		16単位	6単位		4単位		6単位		—	—

※ 32単位のうち16単位以上は所属する専攻の指定科目の中から修得する必要がある。

(2) アジア言語学科インドネシア語専攻・ベトナム語専攻・タイ語専攻

			1年次		2年次		3年次		4年次	
			36単位		36単位		36単位		16単位	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
外国語科目	英語科目	26単位	8単位		8単位		6単位		2単位	2単位
	地域言語科目	30単位	10単位		8単位		4単位	4単位	2単位	2単位
	選択外国語科目	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特別演習科目		—	—	—	—	—	—	—	—	—
基礎科目		12単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	—	—
研究科目		32単位※	4単位	4単位	6単位	6単位	6単位	6単位	—	—
研究演習		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位	
卒業論文		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位	
自由選択科目		16単位	6単位		4単位		6単位		—	—

※ 32単位のうち16単位以上は所属する専攻の指定科目の中から修得する必要がある。

(3) イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻

				1年次		2年次		3年次		4年次	
				36単位		36単位		36単位		16単位	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
外国語科目	英語科目	8単位	+8 単位	2単位	2単位	2単位	2単位	—		英語/スペイン語/ ポルトガル語：8単位	
	地域言語科目	36単位		6単位	6単位	6単位	6単位	12単位			
	選択外国語科目	—		—	—	—	—	—			
特別演習科目		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基礎科目		12単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	—	—	
研究科目		32単位※	4単位	6単位	6単位	6単位	6単位	4単位	—	—	
研究演習		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位		
卒業論文		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位		
自由選択科目		20単位	6単位		4単位		10単位		—	—	

※ 32単位のうち16単位以上は所属する専攻の指定科目の中から修得する必要がある。

(4) イベロアメリカ言語学科ブラジル・ポルトガル語専攻

				1年次		2年次		3年次		4年次	
				36単位		36単位		36単位		16単位	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
外国語科目	英語科目	20単位	+8 単位	8単位		8単位		4単位	—	英語/ポルトガル語/ スペイン語 ：8単位	
	地域言語科目	24単位		10単位		8単位		3単位	3単位		
	選択外国語科目	—		—	—	—	—	—			
特別演習科目		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基礎科目		12単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	—	—	
研究科目		32単位※	4単位	4単位	6単位	6単位	6単位	6単位	—	—	
研究演習		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位		
卒業論文		4単位	—	—	—	—	—	—	4単位		
自由選択科目		20単位	6単位		4単位		10単位		—	—	

※ 32単位のうち16単位以上は所属する専攻の指定科目の中から修得する必要がある。

(5) アジア言語学科中国語専攻・韓国語専攻（3年次編入生）

			包括認定単位数	3年次		4年次	
			64単位	40単位		20単位	
				前期	後期	前期	後期
外国語科目	英語科目	16単位	12単位	2単位	2単位	—	—
	地域言語科目	40単位	24単位	8単位		4単位	4単位
	選択外国語科目	—	—	—	—	—	—
特別演習科目		—	—	—	—	—	—
基礎科目		12単位	4単位	4単位	4単位	—	—
研究科目		32単位※	8単位	10単位	10単位	4単位	
研究演習		4単位	—	—	—	4単位	
卒業論文		4単位	—	—	—	4単位	
自由選択科目		16単位	16単位	—	—	—	—

※ 32単位のうち16単位以上は所属する専攻の指定科目の中から修得する必要がある。

(6) イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻（3年次編入生）

				包括認定単位数	3年次		4年次	
				64単位	40単位		20単位	
					前期	後期	前期	後期
外国語科目	英語科目	8単位	+8 単位	8単位	—		英語/スペイン語/ ポルトガル語：8単位	
	地域言語科目	36単位		24単位	12単位			
	選択外国語科目	—		—	—			
特別演習科目		—	—	—	—	—	—	
基礎科目		12単位	4単位	4単位	4単位	—	—	
研究科目		32単位※	8単位	10単位	10単位	4単位		
研究演習		4単位	—	—	—	4単位		
卒業論文		4単位	—	—	—	4単位		
自由選択科目		20単位	20単位	—	—	—	—	

※ 32単位のうち16単位以上は所属する専攻の指定科目の中から修得する必要がある。

社会的・職業的自立を図るために必要な能力の養成に向けた
科目のシラバス

(1) キャリアデザイン

講義名	キャリアデザインA
担当教員	豊田 聡
期間・曜日・時限	前期 水曜日 1時限
履修開始年次	1年
単位数	2
授業の目的	未だ職歴(=キャリア)を持たない履修生を対象として、職歴を描く力を養う。力とは、スキル、知識及びマインドセットである。世間に同一の家族が存在しないのと同様に、他人と同一のキャリアは存在しない。自身のキャリアを描く、という本質的には孤独な作業の能力を、この科目においては履修生同士の演習を繰り返すことで高めてゆく。もっとも易しいカリキュラムを目指す、自身と向き合うことが易しいとは限らないので多くの気付きを得ることができるであろう。授業計画には通商産業省が提唱する『社会人基礎力』向上の訓練を含む。「なぜ、いま、ここで、これを学んでいるのか」をより明確にすることで、貴い大学生活を更に充実させる弾みとして欲しい。
サブタイトル	「大学生のキャリアデザイン初歩」
授業の計画	第 1 回 キャリアデザインとは／この科目の目的 第 2 回 社会人基礎力(概要と自己診断)／何のために働くか 第 3 回 新聞記事に学ぶ勤労環境 第 4 回 職種研究、業界研究 第 5 回 自身の強みを知る 第 6 回 基礎力トレーニング1「前に踏み出す力」 第 7 回 基礎力トレーニング2「考え抜く力」 第 8 回 基礎力トレーニング3「チームで働く力」 第 9 回 ワーク・ライフ バランス ～生活との調和～ 第 10 回 語学を生かすキャリア 第 11 回 働く先輩 ゲスト座談会 第 12 回 キャリアデザイン ケース学習 第 13 回 グループテーマ研究 第 14 回 マイ・キャリアデザイン手法 第 15 回 マイ・キャリアデザイン発表
参考書	『【映画】The Shawshank Redemption[邦題:ショーシャンクの空に]』フランク・ダラボン監督 『【映画】フラガール』李相日監督
成績評価の方法	出席 30% 授業内貢献 30%+課題(中間・期末レポート)各 15% 授業レポート 10%

その他	原則として毎週プリントを配布する。遅刻・早引けもキャリア形成の一環として完全に自己管理とする。
注意事項	大学生生活前半(1年～2年生)の履修が望ましいが、履修希望者多数の場合、3年生を優先する。同年度内の「キャリアデザインF」との連続履修を認めない。

(2)キャリア開発

講義名	キャリア開発 G
担当教員	立花 久稔
期間・曜日・時限	前期 月曜日 3時限
履修開始年次	1年
単位数	1
授業の目的	自己のキャリアを考える時、3つの観点から自己分析をすることが重要である。①自分は何に興味があるのか？②自分の価値観は？③自分の能力は？本コースは、将来のキャリア設計にあたり、最もベースとなる「自分自身の理解」を他者とのコミュニケーションを通じて深めていくユニークなコースである。毎回テーマが与えられ、そのテーマに沿ったグループ討論やスピーチを行う。また、ゲスト講師を適宜招請して業界情報や現場で必要とされるコミュニケーションのノウハウを学習する。本コース終了までに次の能力を習得することを目指す。1) 自己のキャリアビジョンが描ける能力、2) より良い人間関係を築く能力、3) ストレスや悩みを克服する能力、4) 人前で自分の考えを堂々と話す能力。自分が将来進むべき道が分からずに迷っている方、自分自身をどうしてももっと自由に表現できるのかと悩んでいる方、積極的な自分になりたいと思っている方の履修を歓迎する。
サブタイトル	実践コミュニケーション能力開発
授業の計画	第1回 オリエンテーション (キャリア形成におけるコミュニケーションの重要性) 第2回 自己紹介:効果的な自己紹介の仕方、人の名前の覚え方 第3回 コミュニケーションとは: 過去の失敗から得た教訓、2分間スピーチの公式 第4回 目標設定:このコースにおける目標設定 第5回 熱意の重要性:これまでに自分がチャレンジして達成したこと 第6回 殻を破る:まだ気づいていない自分の中の自分 第7回 他者への感謝:自分の人生の中で最も感謝する人 第8回 自己の価値観の確認:参考書使用 第9回 価値観の実践:実践報告 第10回 リーダーの条件:自分が最も尊敬する人は 第11回 問題解決:グループワーク 第12回 感動とは:人生で最も感動したこと 第13回 他者から協力を得る:他者の正当な評価 第14回 振り返り:このコースを受けて自分が最も変化したこと 第15回 目標設定:現時点で自分が望むキャリアを発表し、具体的な行動計画を述べる。

参考書	『人を動かす』『道は開ける』/デールカーネギー(創元社)
成績評価の方法	出席率20%、提出物10%、プレゼンテーション50%、授業貢献20%
その他	楽しく・身につくをモットーとしたコースです。テキストはそのつどコピーを配布します。

(3)ビジネス・インターンシップ I

講義名	ビジネス・インターンシップ I A
担当教員	北原 賢三
期間・曜日・時限	前期 月曜日 3時限
履修開始年次	2年
単位数	2
授業の目的	ビジネス・インターンシップは次のような学生のために授業内容が企画された。(1)自分が実社会でどのように社会人として生計を立てて生きていくのか実感が湧かない学生、(2)企業とは何か、どのように企業を知ればよいのか、そして企業での仕事とは何なのかを知りたい学生、(3)企業リサーチやマーケティングの方法を実際に使うことに興味がある学生、(4)企業に就職することが不安であり、どのように企業に応募して良いのか心配な学生、(5)グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを通じて講師や他の学生と意見交換をしたい学生。このインターンシップを最後までやり遂げれば、課題をやり遂げた達成感も得られる。さらに就職活動の際にインターンシップを行ったことを具体的な体験として企業にアピールできる。なお、授業はゲスト講師も含め、15名程度の小グループゼミナール制にして進めていく。
授業の計画	第 1 回 授業全体説明 第 2 回 ミニ・リサーチ説明 第 3 回 ミニ・リサーチ方法論 第 4 回 リサーチ企画案 第 5 回 リサーチ企画書 第 6 回 マーケティング(1) 第 7 回 マーケティング(2) 第 8 回 企業の基礎知識(1) 第 9 回 企業の基礎知識(2) 第 10 回 ミニ・リサーチ、データ分析、報告書作成 第 11 回 プレゼンテーション(1) 第 12 回 プレゼンテーション(2) 第 13 回 派遣企業説明(1)、インターンシップ準備 第 14 回 派遣企業説明(2)、インターンシップ準備 第 15 回 まとめ、補足
成績評価の方法	出席 50%、授業レポート 20%、中間レポート 10%、期末レポート 10%、プレゼンテーション 10%。
その他	出席を重視します。3 年生を優先します。前期インターンシップを履修した学生は後期インターンシップ授業も登録履修しなければなりません。

(4)ビジネス・インターンシップⅡ

講義名	ビジネス・インターンシップⅡA
担当教員	北原 賢三
期間・曜日・時限	後期 月曜日 3時限
履修開始年次	2年
単位数	2
授業の目的	前期ビジネス・インターンシップⅠを履修し、夏季ビジネス・インターンシップを修了した学生がグループディスカッションを通して相互の情報や意見交換を行う。そして、インターンシップで得たデータ内容をまとめ、プレゼンテーションを行い、報告書を作成する。このようなプロセスのなかで、インターンシップにおける方法の評価、コミュニケーションとしての良いプレゼンテーションの仕方、分かりやすい報告書の書き方等を学んでいく。さらに学生個人としての企業の選択の仕方又は企業への志望動機・理由を考えていく。加えて将来の就職活動のために、エントリーシートの書き方の練習や模擬面接も行っていく予定である。そして社会人基礎力のより深い理解を図るため、グループで「ドラマ」をつくり、プレゼンテーションを行う。
授業の計画	第1回 授業全体説明 第2回 夏季インターンシップ報告準備 第3回 インターンシップ・プレゼンテーション(1) 第4回 インターンシップ・プレゼンテーション(2) 第5回 インターンシップ・プレゼンテーション(3) 第6回 企業研究(1) 第7回 企業研究(2) 第8回 企業研究(3) 第9回 エントリーシート準備(1) 第10回 エントリーシート準備(2) 第11回 エントリーシート準備(3) 第12回 模擬面接 第13回 ドラマプレゼンテーションについて 第14回 ドラマプレゼンテーション準備 第15回 プレゼンテーション
成績評価の方法	出席 50%、授業レポート 10%、中間レポート 10%、期末レポート 10%、プレゼンテーション 20%。
その他	出席を重視します。後期インターンシップを履修登録する学生は前期インターンシップを履修していることが条件です。